

# こんにちは! 農業普及所です!



第126号

県中農林事務所須賀川農業普及所  
須賀川市花岡3 4  
TEL 0248-75-2180 75-2181  
FAX 0248-72-8331  
E-mail sukagawa.af02@pref.fukushima.lg.jp

## 地域の課題解決に向けて実証に取り組みました

### 露地栽培における日射制御型自動かん水装置導入による安定生産

近年、露地野菜の栽培において、定植直後や梅雨明け後の高温・乾燥の影響が大きな問題となっております。対策としてこまめなかん水管理が挙げられますが、労力がかかるなどの理由で実施できずに収穫量が減少する事例が増加しています。そこで、ソーラーパネルで発電し、天候に合わせたこまめなかん水を自動的に行う装置（ソーラーパルサーE）を設置し、露地なすを対象とした実証に取り組みました。

調査の結果、ソーラーパルサーEを利用した実証区の収量は、対照区を16%上回りました。実証した装置の導入コストは約28万円で、須賀川地域の平均収量から16%増収として試算すると、約2年で導入コストを回収できる結果となりました。

日射制御型自動かん水装置は、なす以外にきゅうり、さやいんげん等でも活用できる技術です。

興味のある方は、須賀川農業普及所までご相談ください。



図1 自動かん水装置(右:ソーラーパルサーE)

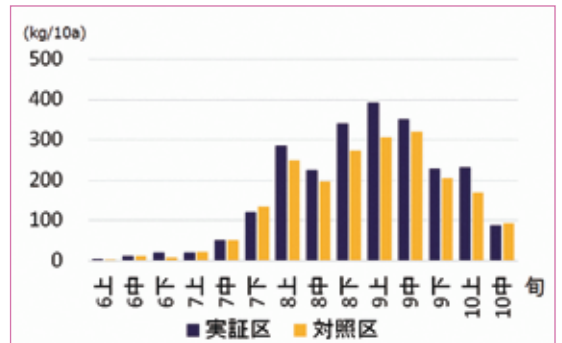


図2 ナス旬別単収の推移

### 夏秋小ぎく電照栽培における需要期安定出荷技術の実証

夏秋小ぎく栽培において、気象の影響を受けにくい電照栽培の導入により、需要期に合わせた出荷時期の調整を図るとともに、設備導入のコストや適正規模を検証して、需要期安定出荷技術を確立するため、「アグリふくしま革新技術加速化推進事業」に取り組みました。

今年度の実証では、表1のとおり実証を行った3品種共に、電照の効果があり、開花時期を調節することができ、高単価の需要期に計画的に出荷を行うことで販売額の向上が図られました。

次年度の実証では、電照効果の高い品種の選抜を行い、さらなる出荷時期の安定化を図ります。

表1 電照栽培による採花期の違い

品種	消灯日	採花始期	採花終期
秀ちはや	電照なし	7/28	8/8
	6/10	8/6	8/13
秀うきぐも	電照なし	7/21	8/8
	6/10	8/6	8/11
クレオ	電照なし	7/4	7/16
	6/10	7/28	8/12



左:電照あり

右:電照なし

図3 8月1日の蕾の状態(品種:秀ちはや)

## 樹体ジョイント仕立て 本格的に出荷が始まりました！

「樹体ジョイント仕立て」は複数の樹の主枝部を連続的に接ぎ木で連結し、直線状の集合樹として仕立てるもので、骨格枝の早期確立や樹冠構造の均一化、作業動線の直線化を可能とし、管理作業の効率化を図ることができます。

管内では、平成28年から日本なしでジョイント仕立て栽培が導入されています。大苗育苗から4年経過したほ場では、今年度から本格的に収穫が始まりました。果実品質は慣行栽培の成木のものと同等であり、10aあたり2t程度収穫することができました。また、導入した生産者からは「作業動線が直線となり作業がしやすく、見落としが少ない」、「側枝の誘引・棚付けが簡単になり、熟練者でなくてもできる」との声があります。樹体ジョイント仕立てに興味がありましたら、須賀川農業普及所までお問い合わせ下さい。



図4 なし樹体ジョイント仕立て

## 粃米サイレージを使ってみませんか？

石川地方では、地域内の飼料用米の利用推進のため、平成27年度から、粃米サイレージの生産・利用に取り組んでいます。粃米サイレージとは、収穫した粃米を生のまま破砕して、水と乳酸菌等を添加し、密閉して、約2ヶ月間発酵させた飼料です。粃米サイレージは、飼料コストの低減が図られるとともに、牛の嗜好性がよく、利用者からは食いつきがよく発育もよいと高評価を得ています。

現在は、200kg、50kgのサイズで販売されており、飼養規模や給与体系に合わせた利用が可能です。また、利用者からの要望に応じて、今年度は試験的に10kgサイズの生産を行い、さらに利便性向上を図っていきたいと考えています。粃米サイレージの取組は、今年で5年目となり、年々生産調製技術の向上が図られ、質の高い飼料が生産されています。

地域内の飼料用米をぜひ、使ってみませんか？



図5 粃米サイレージ(10kg)

## GAP取得推進状況について

GAP（農業生産工程管理）は、食品安全だけでなく、環境保全・労働安全などの観点から、作業の効率化や農業経営の改善を図る手法であるため、福島県ではGAPの実践・認証取得を積極的に推進しています。

須賀川農業普及所では、GAPの認証取得を希望する個人・団体に対して支援を行っており、現在、JGAP認証6件（個人2件、団体4件）とFGAP認証2件が認証取得しています。

表2 須賀川地域のGAP取得状況

JGAP 団体認証	ふくしまGAP生産者協議会（須賀川市） 夢みなみ農業協同組合すかがわ岩瀬地区野菜協議会大東支部直販部会（須賀川市） いわせの錦秋米生産部会（須賀川市） 古殿ミニトマト生産部会（古殿町）
JGAP 個人認証	渡辺果樹園（須賀川市） 農事組合法人グリーンファーム九生滝（平田村）
FGAP認証	内山正勝さん（天栄村） 株式会社阿部農縁（須賀川市）



## きゅうりの生産振興について

須賀川農業普及所では、きゅうりの生産性向上のため、雨除け栽培（施設化）、日射制御型自動かん水装置、環境制御技術など、各種技術の普及推進を行っています。それぞれ、収量向上、省力化などのメリットがあります。各種補助事業が活用できる場合がありますので、導入をご検討ください。

### ★露地栽培から雨除け栽培に転換してみませんか

「雨除け栽培」とは、ビニールハウスの中にアーチを組み、4月下旬以降にきゅうりを定植し、11月中旬まで収穫する栽培方法です。

#### 《雨除け栽培導入のメリット》

- ・ 温度が確保されるため栽培期間が前後に延び、収穫期間が拡大されます。
- ・ 側枝の発生が良くなり、高単価が期待できる8月中旬以降の収量が向上します。
- ・ 気象災害（霜害、風害、ひょう害等）の被害を軽減でき、収量、品質が向上します。
- ・ 雨天時の作業性が改善されます。
- ・ 降雨による病害（炭疽病、つる枯病等）の発生や、害虫の侵入が減るため、農薬による防除回数が削減できます。



図6 雨除け栽培のきゅうり

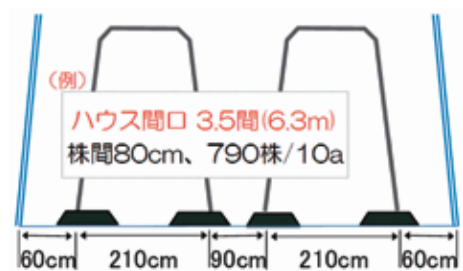


図7 雨除け栽培きゅうりの栽植様式

### ★日射制御型自動かん水装置で収量アップ！

1 ページで紹介しました、日射制御型自動かん水装置（ソーラーパルサー・ソーラーパルサーE）は、きゅうりの栽培でも導入できます。

既に県内では安達地域や田村地域で実証が行われ、導入コストを差し引いても収益向上が期待できる成果が出ており、現在導入が進んでいます。

### ★環境制御技術でさらなる収量向上をめざしてみませんか

近年、全国各地で従来の単収を大きく上回る事例が報告されています。管内では【半促成+抑制】の作型で約35 t/10a（管内平均20 t/10a）、全国では約40 t/10aという事例も見られています。

このような飛躍的な単収向上のカギとなっているのが、環境制御技術です。環境制御技術は、植物の生育の基本である光合成に着目し、従来の肥培や温度中心の管理だけでなく、光合成に最適な環境を整えるための管理を行うものです。

取り組むにあたっては、環境測定装置を導入し、ハウス内の環境（温度、湿度、炭酸ガス濃度、日射量等）を把握したうえで、光合成の向上に必要な対策（炭酸ガス発生装置の導入、灌水装置の導入、サイド・天窓等の開閉管理の改善等）に取り組めます。

導入費用がかかるものの、これまでの実証では、ほとんどの事例で収量向上の効果が費用を上回る結果となっています。



図8 環境測定装置

**技術の詳細や補助事業については、須賀川農業普及所までお問い合わせ下さい。**

# 須賀川農業普及所管内の出荷制限品目のお知らせ

原発事故から8年が経ち、様々な品目の制限解除がなされてきましたが、まだ出荷制限が続いている品目もあるため、管内における現在の出荷制限品目の状況についてお知らせします。

表3に記載の品目は、たとえ放射線モニタリングを実施してND（検出下限値以下）であっても出荷販売はできませんのでご注意ください。

また、穀類につきましては、毎年「大豆」「そば」「雑穀」「小麦」等、品目ごとに市町村単位でのモニタリング調査実施後に出荷販売が可能となります。

令和元年産の「大豆」「そば」については、管内の全ての市町村で出荷販売が可能となっておりますが、雑穀（アワ、きび等）や小麦について、出荷販売が可能かどうかは、出荷先または須賀川農業普及所にご確認ください。

表3 須賀川農業普及所管内の出荷制限品目

市町村名	出荷制限品目名
須賀川市	野生きのこ、こしあぶら、ぜんまい、うど(野生)、うわばみそう(野生)、たらのめ(野生)、たけのこ
鏡石町	野生きのこ、こしあぶら、たらのめ(野生)
天栄村	野生きのこ、こしあぶら、たけのこ、ふき(野生)
玉川村	野生きのこ、こしあぶら
石川町	野生きのこ、こしあぶら
浅川町	野生きのこ、こしあぶら
平田村	野生きのこ、こしあぶら
古殿町	野生きのこ、こしあぶら、たらのめ(野生)、こごみ

※（野生）の記載があるものは、野生のものは出荷制限品目ですが、栽培のものについては、ほ場ごとに栽培状況の確認を行ってから出荷できます。「こしあぶら」「たけのこ」等、（野生）の記載のないものは野生、栽培にかかわらず出荷制限となりますので、ご注意ください。

## 農業経営相談所

福島県では平成30年から「農業経営相談所」を設置しております。相談所では、関係機関が協力し、農業経営の法人化のほか、経営改善に関する様々なお悩みに対応することができます。

課題の内容によっては、スペシャリスト（税理士・司法書士・中小企業診断士等の専門家）の指導を受けることができます。この際にかかる派遣費用については、相談所が負担するため、無料でご相談いただけます。

経営に関するお悩みごとがありましたら、一人で抱え込まずにぜひご相談下さい。ご相談の際には須賀川農業普及所または市町村役場、お近くのJAへご連絡下さい。



## エコファーマーになりませんか？

県では、農業分野における環境負荷の軽減や生物保全等の取り組みの一環として、エコファーマーを推進しています。エコファーマーになるには、「福島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」に従い、5年後を目標に、3つの技術「堆肥等施用技術」「化学肥料低減技術」「化学農薬低減技術」を一体的に導入し、化学肥料施肥窒素量と化学農薬使用回数を県基準の2割減となるように計画を作成して、県知事の認定を受けます。

興味のある方は須賀川農業普及所までお問い合わせください。

